

公益財団法人日米医学医療交流財団 アメリカ短期看護研修助成

研修報告書 (2016年度 助成者)

作成日 2016年10月28日

氏名 (フリガナ)	荒川 浩美 (アラカワ ヒロミ)
研修地	アメリカ・オレゴン州ポートランド市
研修期間	2016年10月9日 (日) ~ 10月15日 (土)
所属機関名	洛和会音羽病院
身分	看護師

今回、研修に参加した理由は、以前から海外の医療や教育に興味があったこと、さらに自らの看護師としての進路に迷っていた時にこの研修を知り参加してみたいと思い参加した。5泊7日という短期間であったがとても多くの学びをすることができた。

今回参加したのは20名であり、全国の病院から来ており、その背景は様々であった。研修では日本とアメリカの違いや尊厳死についてなどの話や、様々な病院や施設見学を行うことができた。その中でも私が印象に残っているのは、アメリカの看護師のモチベーションの高さと、病院としてのバックアップの充実である。日本では看護師の資格を取得するとそのまま就職し、その後資格更新やさらなるキャリアアップをする人は少ない傾向にある。しかし、こちらでは、看護師の資格だけではなく、学位や修士などさらなる資格取得を行う看護師がほとんどであり、またそれに対する病院からのバックアップが実に充実している。就職制度も病院に履歴書を出すのではなく自分の希望する部署に出し、就職試験となる。そのため本当に自分が行いたい仕事を思う存分に行うことができる。日本では残念ながら希望しない部署への配属ややりたいことがあっても資金面、時間面、雇用形態などにより思う存分に行うことができない現状がある。アメリカでは、そういった資格を生かし様々な取り組みがなされており構造・プロセス・アウトカムと、しっかりと計画、実行、評価されていた。それによりスタッフだけではなく患者への満足度の向上や業務改善が行われていた。組織の上層部だけではなく、すべてのスタッフが同じ目標を持ち働いているのだと感じた。研修では高齢者施設への訪問があった。とてもきれいな施設であり、ホテルのようであった。ここでは日本の文化である習字と折り紙を行った。入所者の名前を漢字にあてはめ漢字での名前を書いて渡した。また中には、一緒に書道をしてくださる方もいた。折り紙ではツルを折ったりしながらたくさんコミュニケーションを取った。始まるまではうまくコミュニケーションが取れるのか、楽しんでもらえるのか少し不安であったが、多くの方が笑顔となり、私自身も心から楽しむことができた。また私たちの書いた習字をみて「good」「Thank you」と笑顔で言ってくれた方々の素敵な笑顔は印象的であった。この高齢者施設では毎日様々なイベントが企画してあったり、外出が自由であったり入所者の人権・QOLを重視した環境が整えられていた。

今回の研修では日本とアメリカとの違いを学ぶだけではなく、今後の私の看護師経験に大きな影響を与えるであろうことをたくさん感じ学ぶことができた。私たちが研修に参加するにあたり現地スタッフのJeffをはじめ、たくさんの方が関わってくださり、円滑にそして充実した研修をすることができた。また20名という楽しいメンバーにも恵まれ楽しく研修をすることができた。この研修に参加できて本当によかったと思う。貴重な機会を与えて下さりありがとうございました。